

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境下で家族や地域の方々の協力を得ながらその人らしく、暮らすという理念は継続している。家族とは行事や面会を通して交流する機会を設け、地域では町内会行事に積極的に参加している。又、季刊紙の配布や地域の方々と道で挨拶や声かけを行っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、常に見やすい所に掲示し、来所者にも目につくように掲示してある。又、スタッフは名札の裏に携帯することも継続している。年度の初回学習会には必ず理念とケアのつながりを確認し合い、理念に沿ったケアの提供を目指しカンファレンスの中で話し合いがされる	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	御家族へは、月1回の情報紙・地域向けの季刊紙を発行紙、事業所の活動を紹介している。又、ホームページ、運営推進会議においても同様の紹介を行い、理念の浸透を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会へ加入しており、地域の体育祭やゴミ0運動への参加、地域の公園清掃への参加、散歩時に遊歩道の清掃や草取りなどを行っている。又、公民館祭りやつつじ祭りにも出かけ地域の方々との交流を深めている。地域の学校の行事のお誘いにも参加できており、近隣の方々が散歩の途中で玄関前のベンチで休みながら利用者と会話している光景がある。認知症専門士の資格を得た者が季刊紙で認知症についてお知らせする機会を作ったり、介護保険事業所の広報には認知症に良い食事の掲載を担当している。キャラバンメイトとしては地域の認知症普及活動に参加している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3理念を实践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価のねらいや活動方法を職員に周知するために学習会の年間計画を自己評価及び外部評価に沿ったものとし、実施・改善・ケア計画に取り組んでいる	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の取り組みを運営推進会議の議題として取り上げ、会議に参加したメンバーに報告し意見交換をしている。又、意見を1回／月のカンファレンスにスタッフに伝達し、検討されている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には、運営推進会議の報告を行い、内容確認を受けている。又、時に市職員の参加もあり、意見をもっている。情報紙は、介護保険課・包括支援センターへも提供している。利用者に関する相談についても必要時は出向いたり、家族の相談にもものってもらったりしている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度については、研修において学習する機会を設けている。利用者ご家族にも必要時に情報提供している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、マニュアルを作成しており、ニュースや新聞紙面で目にしたことについて等カンファレンスでにおいて検討される機会を作っている。又、利用者様の権利に関する内容もホーム内に掲示し、来所者に目を向けていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、「契約書」「重要事項説明書」「情報提供に関する同意書」を説明し、契約書を取り交わしている。その際、家族の疑問や不安を引き出し、疑問や不安に答えられるように心がけている。退居に関しても利用者・家族に不安が生じないよう生活指導を行い相談を受けている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から家族や利用者の意見や不安を引き出す努力をしている。ご意見箱の設置・2回／年のサービス評価アンケートの実施・運営推進会議内での意見の報告やカンファレンスを行っている。又、重要事項説明書や契約書へ苦情申し立て先を明記し説明している。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりは、面会時やサービス計画説明時に行っている。受診については、その都度説明を行っており、理解を得ている。金銭管理は、マニュアルに沿って実施し家族の同意のもとに出納を行っている。職員の異動は、情報紙の活用・運営推進会議や家族同伴行事の際に行っている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中で家族と話しやすい関係作りを心がけている。又、重要事項説明書や契約書に苦情先を明記したりご意見箱の設置や2回／年サービス評価に関するアンケート調査を行っている。意見や苦情に関しては定期カンファレンスを活用し話し合いをし改善策を講じるようにしている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスを活用しサービス評価委員会での検討意見の発表・月担当者の行事企画や反省意見の発表・ホーム内での各役割の実施状況や反省企画の意見を吸い上げられる仕組みを作っている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の暮らしに支障のないように、又、利用者の意見を反映できるように体制を整えることができるようにしている。突然の休みに対しては、代替職員の確保を管理者が調整している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については、極力避ける努力をしており、管理者との定期面接時に本人の希望を確認し、対策が打てるようにしている。担当職員の配置換えを行う際は、利用者に十分に説明している。又、誰にでも話しやすい環境を整えることでダメージを最小限にできるようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会で、段階別研修・教育講演・研究発表会が計画されており、介護保険事業所では、事業所研修・外部研修・外部研究発表会への参加が計画されている。ホーム内でも月1回の学習会とバランス・スコアカードによる個人目標に合わせた現場トレーニングがされている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協議会に加入しており、研修や交流の機会は多く情報も得やすい。協議会の役員も引き受けており、活動は活発である。又、八短大の研究グループと研究を共有したり、情報交換をする場も得られている。近隣にもグループホームがあり、花見や町内会の集まり等で顔を合わせることがあり、情報交換の場となっている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会がありストレス軽減目的のクラブ活動・食事会・旅行等の企画がされておりそれぞれ参加している。又、従事年数による海外旅行が企画されており、該当者は参加している。日常的に或るいは、定期面接時に悩みや要望を聞いたり背景を理解し解消できるように相談にのっている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	終業規則により労働条件は守られている。研修参加についても該当者への勤務配慮をおこなっており、教育環境を整えている。健康管理については年2回の健康診断が実施されている。又、勤務上身体に負担のかからない時間配分での作成を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回、電話での相談が多いが、サービス利用の希望がある時は直接の見学をお勧めしている。本人や家族の思いや悩みを良く聞き、希望・身体状況など十分に受けとめ信頼関係の構築を大切にしている。又、放置することなく、相談に応じる旨を申し添えている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援をホーム内のみでなく介護保険事業所でも話し合いをもってもらうことで幅広い選択ができる環境を提供することができるようにしている。又、ニーズや課題に対して検討することで充分ケースを検討し練ることができる。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所日には、できる限り家族も一緒に食事をとってもらい利用者の不安を和らげるようにしている。又、電話での会話や居室のレイアウト等を馴染みの物と配置で安心感がもてるように双方の折り合いがつくペースで序々に馴染むことができるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で出来ることと出来ないことを把握すると共に生活背景や人生経験・生きがいとしてきたことをもとにサービス計画の中で実践できるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にして現在までの経過をできるだけ家族と共有し、家族と一緒にできることから始めるように努力している。強要する姿勢は、家族の協力も得難くサービス計画の善し悪しに反映することを意識して関係作りを進めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族の関係を理解し、絆を大切にしている。例えば、利用者の感謝の言葉を伝えたり、はがきや手紙を書いて送ったり、外出の際は利用者が喜ぶお食事処の場所をお知らせしたり、家族の待つ待ち合わせ場所まで送迎したりしている。遠方から訪れる家族には宿泊も提供している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が関わってきた方々を把握し、はがきや手紙を送付している。又、家族と相談し、思い出の場所やお宅へでかけることもある。特に彼岸やお盆には墓参りを欠かさなかった方が多いため墓参りに同行したり家族の協力を得たりしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、間に職員がすぐに入れるようにきを付けている。サービス計画の中で具体的に検討・明記しており実施されている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	外出の際、近所にいった折りに立ち寄ったり、電話で話をしたりしている。家族も退所後に山菜をもってきてくれたり、不要になったタオルをもってきてくれたりしてくれる。必要に応じて相談・支援は行うことは家族にも伝えており継続的に関わりがもてている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを大切にしておかかわりがもてることを心がけている。希望に添うための情報収集に際しては、プライバシーに配慮しながら家族に拘らず利用者を取り巻く方々からの情報収集に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの活用（これまでのサービス活用も含む）に加えて人生観等も把握できるように心がけている。（特にアルツハイマー型認知症の方）情報収集の際はプライバシーに配慮しながら利用者をよく知る方々からの情報収集も行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の心身の状態・理解力に合わせて、可能な限り継続できるものを取り入れた日常生活を送れるようにサービス計画の中で実践できるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	サービス計画は利用者がその人らしく、安全・安心して暮らせるように利用者や家族の意見を取り入れ、全職員で話し合って作成している。又、サービス計画の説明にはできる限り、家族に加えて利用者本人も参加し実施している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者を中心に実施期間を明記している。限定された期間の計画や利用者に変化が生じたり、家族から途中で希望があった場合は必要に応じてその都度見直しがされている。見直しの際は状況に応じて関係者からの情報収集を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物は個別単位に情報がまとめられており1冊に収められている。個別の観察項目が記入できるようになっており情報の共有はできる。近日単位での情報は、ケアシートを活用し情報や伝達が容易にできるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を有しており、看取りへの対応や病院受診等は家族と充分相談の上実施されている。理美容対応や外出についても日常的に行われており、地域との関わりも深まっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日常的に近隣の店への立ち寄りや通りの散歩時の声かけ・学校訪問・地域の活動参加により知っていただけるようにしている。又、地域の災害救援隊の方々とは、一緒に避難訓練を行ったり、定期的に会合を開いて折り必要事項の確認等も行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の希望により、訪問理美容や訪問歯科、訪問皮膚科の活用をしている。必要時、居宅支援事業所より情報提供してもらうことがある。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者・計画作成担当者を中心に情報交換を行い調整をすることをした。必要時には情報交換ができる準備は整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じてかかりつけ医への受診は行っている。必要に応じて主治医との意見交換も行われ、治療方針への合意もされている。合意や受診については記録に残されており、治療がスムーズに運ぶように支援している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設医療機関やかかりつけ医には常時相談できる体制がある。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており、併設病院も24時間体制であり随時相談・対応が可能である。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	受診や入院に関するマニュアルが作成され、病院との連携や情報の共有は看護師（管理者）を中心に常時行うことができる。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化指針マニュアルに明確に記されており、医療機関や家族との情報交換は容易である。又、情報の共有が早い段階で可能なことから事業所での受け入れ体制も整え易い。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の思いを十分に把握できた上で医療機関との連携を密にとり、対応することができる。急変時の対応についても事前にサービス計画の中で実施できる体制を整えることができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	不安を考慮し、頻回に利用者や家族と面談し利用者の変化を見逃さないように関わりには慎重をきしており、移り住む場所への同行や情報交換も密におこなえるように心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、家族から得た同意書の内容・場所以外では利用できない旨の誓約書を入職時に記入がされる。段階別研修の中でもプライバシーについて研修を行っている。研修受け入れ時にも誓約書を記載してもらっており、個別の声掛けにはサービス計画の中で具体的に示すようにしている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	計画作成時は家族や利用者の希望の確認を行っているが自己表現できない利用者には日常生活の中での喜怒哀楽を観察し評価したり関わる方々の話を聞き選択肢を複数提供し自己決定できるようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした1日が過ごせるように心がけている。又、その日の体調や気分に応じて欲求を推察しケアを行っている。それに伴い遅れてしまった業務は職員間でフォローし合っている。さらに長期間に渡る場合においては、カンファレンスを行い業務の見直しを行っており、利用者の生活に支障のないように心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節の変化に合わせて衣替えを一緒に行い、季節や気温に応じた服装が出来るように支援している。化粧は、外出時や行事の折にはさりげなく実施している。理美容は、利用者の希望により、行きつけ所だったり、訪問理美容だったりまちまちである。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決定するための相談から調理・盛りつけ・セッティング・後かたづけと可能なことをそれぞれと一緒にしている。食事は職員も一緒に食事をし食事摂取状況や代替え品の必要性が把握でき提供できるようにしている。又、利用者の摂取可能な内容（キザミ・粥食・禁止食・軟食・ペースト食）で提供されている		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒におやつを買いに行ったり、近隣へお茶をしに出かけたり等は日常的に行われている。自宅での習慣や利用者の希望はできるだけ継続できるように体調や規制に合わせて実施されている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、利用者には個別に誘導やオムツの検討・選択がされており記録にも残されている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯・回数・体調・季節・汚染状況に応じて柔軟に対応している。ただし最低2回／週は基本とすることになっている。病状により入浴中止の指示がある場合には全身清拭やドライシャンプーを行い利用者の清潔保持に努めている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	少しの休憩や身体休めも等、生活習慣や体調に合わせて休める場所の確保がされている。不眠時の対応についてはサービス計画に対策が記載され実施されており記録にも残されている。安眠対策として就寝前のフットマッサージや足浴、ホットミルク等の対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を重んじるとともに昔から行われていた年中行事を通して当時の事を思い出してもらえようを実施している。利用者が明るく過ごせる環境の整備や外出・散歩・行事参加・地域活動等やり慣れたことへの配慮を欠かさないように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力や家族との相談の中で決定している。自己管理が不可能な方についても買い物の際は、職員と一緒に金銭の受け渡しは行っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に合わせて戸外へ行くことは日常的に行われている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望が叶えられるように家族と相談しながらサービス計画の中で実施されるようにしている。外食・喫茶店・道の駅・デパート等は日常的に行われているが、その他さくらんぼ狩り・花見・ホテルでの忘年会等は家族と共に出かけている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、希望時に使用していただいている。遠方にいる家族で生活状況を知りたいご家族には、主介護者とは別にお便りや手紙を送付したりしている。又、年賀状や暑中見舞いのはがきを個々にかいて頂き節目の挨拶を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者に関わりのある方の来訪は快くお迎えできるように心がけている。来訪時は一緒におやつや食事をしていただきゆっくり昔話ができるように環境を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルが作成されており、委員会での検討・学習会での伝達も行われている。やむ終えず実施する際は、サービス計画の中で家族の同意の基に実施されるようにしている。施行後は、マニュアルに従い定期的なカンファレンスで拘束解除に向けて検討される。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	解放時間は、9時から17時としており利用者の行動に注意を払って職員間の声かけも行えている。外出傾向強い利用者には状況をみて一緒に外出し気分転換を図る等している。家族には一部不安の声がきかれる方もいたが理解をえられるようになった。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わず利用者のプライバシーに配慮できる範囲にスタッフが配置されている。脱衣行為等は未然に防げている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物に関する保管方法や場所が定められており手の届かない場所への設置や施錠されている場所への保管がされている。異食のある方については、サービス計画の中で計画的に実施される。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルがあり、委員会での検討もされている。カンファレンスにおいて事故（インシデントを含む）ごとに検討した結果によりマニュアルに追加されていき職員にも周知できるように委員が申し送りノートを活用し実施している。個別にはサービス計画の中で実施されるようにしている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変じ対策マニュアルがあり、併設病院も24時間体制であるため応援を受け易い。又、研修参加により実施訓練も定期的に行っている。更に看護師より指導を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っているが、訓練に合わせて自分たちの災害時の動きについてマニュアルに沿ってチェックがされている（防火管理者によるチェック）。災害救援隊・他事業所の協力体制の訓練も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	突発的な事柄については状況に応じて観察の上家族と協議の上、計画の見直しを行っているが、予測可能な事柄についてはサービス計画の中に明記し実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインのチェックやケアシートの活用・看護師への相談により早期に異変に気づき対応することができる。個別の疾患や受診記録は「医療の経過記録」に記載情報を共有することができる。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理は全て看護師が実施しており、服薬説明書や医療の記録の共有により職員が周知できるようにしている。又、服薬チェックも3回実施できるようにしてあり服薬後は記録に明記される。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬にのみ頼るのではなく食事や運動・腹部マッサージ等による排便の効果の検討と実践がされている。個別にはサービス計画の中で実施されている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に個別に合った方法により口腔のケアを行っている。方法に検討を要する時は、かかりつけの歯科医師に個別相談し方法の指導を受けている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士にアドバイスにより献立評価を行ってもらったり、病院受診時に血液検査による栄養状態の確認により状況判断を行っている。水分摂取量も概ね把握しており必要に応じて水分や排泄量のチェックをおこなっている。食事量は毎食チェックされカルテに明記される。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	委員会が設置されており、情報の共有やマニュアルが作成されている。職員の研修も内・外に参加し情報収集や対策検討・実施されている。家族会においても手洗いの体験を行い感染症対策が浸透している。個別に介助時の使い捨てグローブの使用も検討・実施されている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保管の場所・方法の取り決めがされている。冷蔵庫内の清掃・まな板や布巾の消毒・使用方法も決め、手洗い後の手拭きは、ペーパータオルを用い使い捨てとしている。買い物時は、店内の冷蔵（凍）庫の温度チェックがされている所での購入をしており買い物後は真っ直ぐ帰設するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花飾り・鉢植え・花壇の活用・ベンチの設置により近隣の方が休めるように配慮したり表札の設置により暖かさが現れるようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設置家具は一般家庭で使用されているものと同じ物を使用しておりテレビの音や外部の騒音には気配りをしている。（外部の車の音は、住宅街にあって昼夜の差を生む為返って良い刺激となりメリハリがついて良い）又、利用者の意見をもとに飾り付けの位置を決定したり模様替えをしたりしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置の工夫を行い、個々の休める空間やみんなで過ごせる場所の確保を行っている。ひとりで過ごしたい時やみんなと会話したい時等自由に選択できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の意見を反映できるように考慮している。使い慣れた物や思い入れの或る物については持参いただき安心して居られる環境づくりを心がけている。季節ごとに模様替えをしていた方は家族と相談しながら模様替えを継続するようにしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	人体に影響を及ぼさない程度のオゾン脱臭機材が設置されており定期的に点検をされている。日常的には換気はもちろんのこと温度や湿度をこまめにチェックし、環境を整えることへの気配りはされている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の能力に応じて介護用品や手作り用品にて安全に生活できるように配慮している。夜間照明や電灯紐の調節、入浴椅子の選択や回転板の活用、脱衣所への椅子の設置、てすりの設置の工夫、機能に合ったソファの選択等行っている。必要時は滑り止め等の利用も行う。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	テーブルメイトの定着、居室移動は極力避ける、年3回の業者委託による清掃により汚れによる見間違いを予防する、居室間違い予防対策としてのれんや写真の掲載等の工夫をしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	休憩や地域の方との会話が楽しめるようにベンチの設置をしたり裏庭に物乾し場や家庭菜園が楽しめるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者ひとりひとりが明るく生活ができることを願って、家族と地域の方々の協力を得ながら支援しています。又、ホームで最期を迎えたいという家族や利用者の声も多くなりました。常に、家族や利用者の話に耳を傾けその人らしい最期を迎えられるように、医療機関との連携や職員指道を行い学習の機会も多くもてるように努力しております。又、家族との関係は良い状況で維持できており、行事参加のご家族の人数も年々増加傾向をたどっています。とても喜ばしいことに参加される家族には今まで関わりの少なかった方が少しずつ増えていることです。地域の協力も得られており、雪桜で室内での花見になってしまったことを聞き、いくはずだった場所のさくらの写真のDVDを貸してくださったり、ごみ0参加に対して感謝の言葉をいただいたり、地域の体育祭でも快くみなさんがテントへ引き寄せてくださいました。支えられて生活していることを実感すると共に自分たちにできることをお手伝いして役だっています。